

試験報告書

依頼者 共同開発コデラカプロン株式会社
品名 マスク用銅布フィルター生地 1点
試験項目 抗ウイルス性

平成 22 年 1 月 26 日付けで当所に提出された試料の試験結果は下記の通りです。

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 2-5-19

財団法人 日本化学繊維検査協会

生物試験センター

TEL:06-6441-0399 FAX:06-6441-6803

記

試験結果

1. 細胞毒性確認試験

抗ウイルス性試験に使用する Madin-Darby canine kidney (イヌ腎臓) 細胞に対して試験の薬剤等が細胞毒性を示すと試験が出来ない場合があるため、細胞毒性確認試験を行った。その結果、対照サンプルの標準白布には細胞毒性は認められなかったが、供試験料(42765)の抽出液は細胞毒性が見られた。そのため細胞毒性を回避するため、供試細胞に感染させる段階で 10 倍希釈を行った。

2. ウィルス回収確認試験

標準白布を用いてウィルスの回収率を測定した。その結果、標準白布にウィルスを吸着する性質が見られたが、試験実施可能な値であった。

3. 抗ウイルス性試験

試料	ウィルス感染価		ウィルス減少値 (初期に対して)
	0 時間	8 時間後	
生地 (42765)	7.6 x 10 ⁶	6.3 x 10 ¹	>5.1
標準白布		1.7 x 10 ⁵	1.7

4. 試験方法

供試ウイルス懸濁液を試料に接種し 8 時間室温で放置した後、ストマッカーによりウィルスを洗い出しウィルスを測定した。

供試ウイルス : A 型インフルエンザウイルス・*Influenza A virus*(H1N1)

試料



以上

平成 22 年 3 月 31 日

依 頼 者 共同開発コデラカプロン株式会社

(財) 日本化学繊維検査協会
生物試験センター

試験証明書 (CK-09-091443) について

平成 22 年 1 月 26 日にお預かり致しましたサンプル (42765) を A 型インフルエンザウイルスによる抗ウイルス性試験を実施した結果、ウイルス減少値が >5.1 でした。一方、対照サンプルの標準白布のウイルス減少値は 1.7 でした。ウイルス減少値は大きいほど抗ウイルス性が高いと言えます。

現在、繊維業界には抗ウイルス性の基準はありませんが、消毒剤の分野では 3~4 ケタのウイルスの減少が必要とされています。

以上